

## 令和7年9月定例会 環境農林委員会の概要

日時 令和7年10月8日(水) 開会 午前10時 1分  
閉会 午後 0時14分

場所 第6委員会室

出席委員 杉田茂実委員長  
橋詰昌児副委員長  
林薫委員、飯塚俊彦委員、内沼博史委員、新井豪委員、小川真一郎委員、  
小島信昭委員、細川威委員、松坂喜浩委員

欠席委員 なし

説明者 [環境部関係]  
堀口幸生環境部長、竹内康樹環境部副部長、山井毅環境未来局長、  
小田恵美環境科学国際センター長、鈴木健一環境政策課長、  
佐藤正太温暖化対策課長、尾崎範子エネルギー環境課長、  
小ノ澤忠義大気環境課長、堀口郁子水環境課長、  
宮原正行産業廃棄物指導課長、今川知浩資源循環推進課長、  
高橋和宏みどり自然課長、八戸昭一環境科学国際センター研究企画室長、  
茂木守環境科学国際センター研究推進室長  
[農林部関係]  
竹詰一農林部長、松澤純一農林部副部長、長谷川征慶農林部副部長、  
坂梨栄二食品衛生安全局長、中村真也農業政策課長、  
川嶋正樹農業ビジネス支援課長、田嶋貴公農産物安全課長、  
渡辺志保畜産安全課長、高橋正浩農業支援課長、吉田義彦生産振興課長、  
阿部徹森づくり課長、中崎善匡全国植樹祭推進課長、西澤徳一郎農村整備課長

### 会議に付した事件並びに審査結果

- 1 議案  
なし
- 2 請願  
なし

### 所管事務調査

- 1 環境部関係  
暑さ対策について
- 2 農林部関係
  - (1) イネカメムシと高温障害による被害について
  - (2) 高温による農作物被害について

### 報告事項

- 1 環境部関係  
環境科学国際センターの取組について
- 2 農林部関係
  - (1) 農業技術研究センターの業務の効率化及びソフト・ハード面の充実について
  - (2) 埼玉県県産木材利用促進条例(仮称)骨子案について

【所管事務に関する質問（暑さ対策について）】

林委員

- 1 今年の異常な暑さの原因について、県としてどのように分析をしているのか。また、この暑さは来年以降も続くのか。今後の予測についても願います。
- 2 今年の夏も、健康や生命に危険を及ぼすほどの暑さであったと言えるかと思う。県民の健康を守るため、県は現在どのような取組を行っているのか伺う。
- 3 最近では、室内でも熱中症になるほどの暑さなので、エアコンの活用も必要になっていると思う。エアコンを使うとその分、CO<sub>2</sub>の排出量も当然増えることになり、暑さ対策と温暖化対策の両方担う環境部としては、両方のバランスのとり方に苦慮されているのかと思う。この相反する二つの課題をどう両立させていく考えなのか、御所見を伺う。

環境科学国際センター研究企画室長

- 1 今年の夏の異常な暑さは、地球全体の気温が高くなっていることに加えて、数々の異常気象が重なったことが原因というふうに考えて分析している。具体的には、太平洋高気圧が大きく張り出したこと。梅雨明けの時期が非常に早かったこと。上空に位置し、乾燥した空気をもたらすチベット高気圧の張り出しがあったこと。そして海面水温が平年よりも高かったことなどが挙げられるかと思う。さらに、山越えの暖かい風が吹き下ろすフェーン現象も加わり、8月5日には鳩山などで過去最高の気温を記録した。長期的な見通しとしては、地球温暖化が進行する中で、今後も、今年のような気温の高い夏が増えるのではないかというふうに考えている。

温暖化対策課長

- 2 まずは熱中症を防ぐため、保健医療部など関係部局とともに県民向けの情報発信を行っている。熱中症警戒アラートをプッシュ型で配信しているほか、環境部でも先ほど説明したとおり、県内30か所で測定した暑さ指数をリアルタイムで配信している。また、熱中症予防策をまとめたリーフレットを配布したり、デジタルサイネージなどで情報発信をしている。さらに、外出時の熱中症を防ぐため、暑さをしのげるまちのクールオアシス、クーリングシェルターや日傘の活用を呼び掛けており、本年度は、民間企業と連携して、日傘のシェアリングサービスも開始している。
- 3 県民の健康を守るには、暑さを我慢せずエアコンなど適切に利用することが必要になるかと思う。暑さを軽減する方法は、エアコンだけではなく、屋根、外壁の遮熱塗装、窓ガラスの断熱化なども効果がある。必ずしもCO<sub>2</sub>排出につながらない暑さ対策もあるので、こういう情報を市町村や県民、事業者提供したり、仮にエアコンを導入する場合にも、CO<sub>2</sub>排出量の少ない高効率のものを推奨するなどの方法により、暑さ対策と、カーボンニュートラルの実現の両立を目指していきたいと考えている。

林委員

県の取組の現状について、お答えを頂いた。これらの取組に関して不足している部分や課題はあると考えているのか。また、それに対し今後どのように対応していくのか、再度伺う。

温暖化対策課長

課題としては、現在は暑さ対策に関する情報を各部局がそれぞれ発信をしているために、

県民が必要な情報を一度に把握することが難しいということがあるかと思う。今後は、県民が一度に必要な情報にアクセスしやすくなるように、熱中症対策や暑さ対策の情報を一体的に発信したり、SNSを活用してプッシュ配信ができるよう関係部局と連携をして改善に努めていきたいと考えている。

## 【所管事務に関する質問（イネカメムシと高温障害による被害について）】

### 小島委員

- 1 昨年来、イネカメムシあるいは高温障害もそうだが、イネカメムシも農林部の努力下、それぞれの振興センターから営農者に随分働き掛けがあったおかげで、大分防除ができたところもあるが、いまだに晩稲を収穫しているところだと思うが、いまだに被害もあるという報告も受けている。県としては、その被害、中間だがどのようなカメムシによる被害が起きているのか把握しているのかということを知りたい。
- 2 高温障害、今日来る前に、農家から報告があった。晩稲の彩のかがやき等は、一等、二等、三等を外れて等外が続出している。彩のかがやきは高温に弱いということであるが、彩のかがやき以外にも、ほしじるし等も等外になりそうだという話を聞いて報告が上がってきている。高温障害等による被害の状況等もお聞かせいただきたいと思う。今年、御承知のとおり米の価格が上がって、農家としては有り難いわけであるが、一等、二等、三等で、それぞれ、1,000円ぐらいずつ変わってくると、30キロで1,000円ずつぐらい変わってきて、等外になると買い取りではなく、JA南彩の場合は、そのほかの競りに出して、付いた値段しか付かないというような状況もあるので、直ちにどういうふうな対応ができるかということは難しいわけだが、高温障害の把握も引き続きやっていくべきだと思うので、そこで把握している範囲で結構なので、現状をお聞かせをいただきたいと思う。

### 農産物安全課長

- 1 病虫害防除所における虫を誘殺する予察灯での定点調査においては、6月下旬から6か所中の3か所で発生が確認されており、7月の発生量というのが、これが多くなっており、多発した昨年よりも更に多くなったことから、県の方では7月3日と23日に注意報を出したところである。ただし、8月以降については、県の方でも進めている広域一斉防除が各地で始まり、昨年よりも発生数自体は少なくなっている。これについては、各地域で県の広域防除緊急対策事業の参加や、個人防除などによって、適宜二回防除に取り組んだ効果が表れたもので、発生の抑制とか被害の軽減につながっているというふうなことが考えられている。また、晩稲の状況はということだが、高温障害と絡めてということだが、先ほど等級については、農産物検査法での等級というのが出てくるかと思うが、その結果については8月末時点のものであれば、今取りまとめたものがあるかと思うが、等級落ちした理由が着色粒というふうにした率についてはかなり少なくなっているような現状である。今度は発生量については、現在のところかなり減っており、例えば、7月で県全体が全部で837頭に対して、今年は2,697頭だったが、これが防除を開始してからは、8月が昨年が468頭に対して、今年が123頭で、9月になると昨年が489頭が19頭になっているということがあるので、かなり減ってきていると思う。あと、ただ相変わらずいるのか、いないかというといるので、引き続き適切な防除については推進したいと考えている。

### 農業支援課長

- 2 8月の平均気温は、観測史上最も高温となり、今年も昨年と同様、高温障害が発生し

やすい条件であった。そのため、水稻の白未熟粒については、昨年同等かまたそれ以上の発生の可能性があると考えられている。各農林振興センターの普及指導員が、情報収集した情報によると、広範囲で白未熟粒が発生していると聞いている。しかし、今現在、品質の全般的な情報については、収穫及び農産物検査が現在行われているところであり、品種によって状況が異なるため全容が把握できてないところである。今後も普及指導員が関係機関と連携して、詳しい発生状況の情報収集を進めて、県内の全体像が見えてきた際に適切な対応ができるよう、情報を注視していくということを考えている。

#### 小島委員

カメムシの関係だが、本年度広域防除の予算を組んで防除していただいたということだが、その執行面積というか、予算に対してどのくらいできたのかということをお聞きしたい。

#### 農産物安全課長

今年度については、イネカメムシ広域防除緊急対策事業について予算を頂き、広域防除の支援については、JAや市町村の防除協議会を合わせて28事業主体から申請があり、合計防除面積は7,401ヘクタールである。ただ、こちらの方は申請面積であり、実績報告が上がってくるのが12月頃になるので、実績報告を基にまた面積を確定させていきたいと考えている。執行率については、1,250万円の防除事業費、補助金を組んでいたが、そちらの方を全て使っており、全部で500,000円を8団体それから425,000円を20団体ということで、全て希望して申請していただいている事業主体に配分している。

---

#### 【所管事務に関する質問（高温による農作物被害について）】

##### 内沼委員

- 1 この間、委員会の視察でナシ農家を視察したときも、今年の暑さでそれこそ障害が出ているという話もいただいた中で、ほかの農作物も含めて、今年の暑さで高温障害が出ていると思うが、その辺の今の農産物の、米は今、小島委員からお聞きしたが、農産物の被害について、まずお伺いしたい。
- 2 園芸農家からも被害の状況とかお聞きしているが、どうしても園芸農家含めて、ほかの農家も埼玉県だけではなかなか対応できない。結局、電気代とかもそういうのも含めて対応できないところがあり、これは国に対してもそういうようなことも、県から言わなくてはならないと私は思っている。その辺の国に対する高温障害とかに対しての要望は、どのような形にしているのかをお伺いしたいと思う。

#### 農業支援課長

- 1 普及指導員から情報提供により、少雨の影響から小玉傾向であったとの情報を得ている。ただ問題なく販売は行われているところである。また、ここ数年、高温による果肉障害が発生しており、特に収穫が9月中旬頃からになる「新高」の品種は果肉障害が発生しやすいため、高温に強い品種の「甘太」という品種への切り替え等は普及指導員が推進しているところである。ただし、実際には改植はまだすぐには進まないということで、指導員の方が当面の技術対策として、積極的な灌水等の技術対策を行うように指導しているところである。野菜関係である。普及指導員から生育状況の報告によると、サトイモの葉やけ、また、ネギの生育遅延、また、ナスのつやなし果の発生などが野菜においても高温による影響が確認されている。いずれも被害は限定的で、高温障害

では水稻の影響が主体ということである。そのほか一部の大豆では、高温に加えて、乾燥の影響ということで、発芽不良及び生育が遅れている地域もあるということで、振興センターから、灌水の励行とか、また高温で増加する病害虫の対策について、農作物等の管理技術対策資料を作成して、農業者に注意喚起をしているところである。

#### **生産振興課長**

- 2 現時点で国に対して特段要望を行っている状況にはない。現在、県の方でも施設園芸パイオニア技術推進事業等で高温対策に有効な機器等の支援も行っているので、そこら辺を、しっかり進めていきたいと考えている。

#### **内沼委員**

- 1 先ほど高温障害の関係だが、ナシは新しい「甘太」という品種を今推奨していると聞いたが、ただ野菜でも、稲でも今度「えみほころ」だったか、それを暑さに強いというのを聞いたが、ほかの野菜でも高温に強い新しい品種の研究とか、その辺はやはりやっていくべきだと思うが、その辺については、様々、全てなかなか答えられないのであろうけど、幾つか、ほかの農作物でもあるのかどうかお伺いしたい。
- 2 是非、やはり皆さん困っているので、埼玉県ではなかなか対応できないところもあるので、国への要望はしっかりと届けていただければと思うがどうか。

#### **農業政策課長**

- 1 今し方のやり取りもあったとおり、特に水稻においての被害というのが今後も顕著なものと見込まれるということで、今御紹介いただいた「えみほころ」、こちらの推進を続けていくということもそうだが、それに加えて更なる品種の水稻における品種の育成ということも行っているところである。特に、気候変動においては、高温の暑さもそうだが急な冷害という寒さに振れるということも十分予想されるので、暑さ寒さ両方に対応できるような品種の育成ということを観点に今、育種を進めているところである。

#### **農林部長**

- 2 国への要望については、もう正に生産者からも、近年の暑さは想像を超えているというのはもう伺っているので、そういった声を踏まえて国にはしっかり要望する。今後、担当部長会議もあるし、施策説明会もあるので、そういった様々な機会を通じて、埼玉の実情を説明して、国としてもしっかり対策を講じてもらうように要望していく。